

令和2年度 志木教会附属泉幼稚園 自己評価結果公表シート

2021年8月6日

1. 本園の教育目標

キリスト教保育を実践する幼稚園として以下の基本的な教育目標を掲げる。

- 1) イエス様と共に生活する子どもになれるように導く。
- 2) 思いやり、感謝、あたたかい心を育て、心の動きを大切にする。
- 3) 一人一人の長所を認め、受けいれられているという安定感を持てるように接する。
- 4) 楽しい遊びを通して、自分で考え、判断し、行動できるように導く。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園の教育理念・教育方針の下、その教育目標に従いつつ、個々の園児に寄り添いその成長に仕える。

- 1) キリスト教保育の理念や実際を、個々の園児の成長目標に沿って当てはめ、適切な声かけをしていくようにする。このための備えとして期案等をしっかりと立案する。
- 2) コロナ禍にありつつ通常の保育を継続していくために、感染予防をしっかりとしつつ、どのようなことが出来るかどうか判断し、通常保育を継続していく努力をする、

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取り組み状況
1) 教育目標設定、具体的手段の検証、評価と発展	A	満3才児から5才児に至る教育課程について、年間を5つの分けた各クラスの期案を作り、教師会で確認し全ての教師が理解し、クラス相互間の連携を確認できた。
2) コロナ禍における適切な保育活動を探り求め、実践する。	A	年度最初の2ヶ月間の休園期間は、動画配信や教育資料送付で対応。対面での保育では、飛沫防止アクリル板の設置、手指消毒の徹底、時差降園、マスク着用等が出来た。
3) 園内研修と園外研修の積極的な取り組み	B	月刊「キリスト教保育」を用いての毎週の学び、園外企画の動画を用いての研修への参加が持てた。コロナ禍で園外研修が十分に受講できなかった。
4) 園児の運動能力の発達に関わる学びと実践	A	園庭に古タイヤを4つ設置したことにより、年長児の跳び箱への導入がよくでき、低学年児もバランス感覚を養う遊びができた。年少児から鉄棒に振下がることを始め、高さを変えられる鉄棒の導入で、各園児の身長に沿って体を動かすことができた。さらに登り棒にチャレンジしたり、年長児は園庭でマラソンをすることができた。
5) 災害等に対する危機管理を進める。	B	子どものための非常食を用意しておくことができた。保護者などとの連携の訓練等はできなかった。
6) 自己評価をより具体的な評価を用いて行えるようにする。	B	ある程度連絡帳・アンケート等を通して、保護者からの具体的な評価を得ることができた。しかし、幼稚園活動の全般に関わる活動についての評価を得る機会は、設定できなかった。

7) 学校関係者評価実施への備えをする。	C	この課題については、ほとんどなにもできなかった。
8) 保育者の労働環境の改善	B	1年間の変形労働制を用いて、時間外勤務の明確化をし、それに対する給与ができた。有給休暇日数を明確化しているが、取得できる環境作りが十分に出来てない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍にあって出来ることと出来ないことの判断が難しいときが多くあったが、その都度良き判断ができ、子ども達の健やかな成長に仕えることができたと思う。行事やその活動の評価等は通常の活動の中で行っているが、それを定められた形式で行うことの難しさを覚えた。ある程度研修はできたが、専門的な内容を深く学び機会は少なかった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的取り組み方法
1) 教育目標の設定、具体的手段の検証、評価と発展	満3才児から卒業に至るまでの各学年や時期に沿った教育目標を期案等でさらに明確にし、各園児の発達の様子を教師間で情報交換しつつ、各自の教育課題に適宜対応できるように努める。
2) コロナ禍における適切な保育活動を探り求め、実践する。	With コロナの時代にあって、様々な知見を参考にして何が可能かを適切に判断し、感染予防を徹底しつつ、子ども達の成長に欠かせないコロナ前で行われていた教育活動の再開の可能性を探る。
3) 園内研修と園外研修の積極的な取り組み	日々の忙しさの中に、自己研鑽の時間を取ることができない状況があるが、積極的に研修の機会を得られるようにする。
4) 満3才児(すみれ組)の保育のあり方を探る	どの時期に満3才児が何人入園してくるかは、年度によって異なる。様々な課題が出ているので、今後の解決への道を探る。
5) 防災・防犯・無事故のための危機管理をすすめる。	園児との避難訓練や、災害時等の保護者への引き渡し訓練、教師のさすまた等を用いた不審者に対する訓練や対応、遊具の点検、学校安全のマニュアルを再検討等しつつ、教師間の連携を深める。
6) 特別支援保育	各特別支援児の課題や成長の度合いを適宜全教師間で教育し、適切な教育的な営みができるようにする。志木市発達支援センター(スキップ)等の支援を積極的に受ける。
7) 歌うことを喜び、人前で自信をもって歌う	人前で歌う機会を増やすことを通して、自信をもって歌えるようになり、歌うことを喜び楽しむことができるようにしていく。
8) 保護者と連携して食育を充実させる	様々な機会を通して食育の大切さを発信し、各園児の偏食傾向を是正できるように取り組む。